

スディバナビラと野嵩観光

市指定史跡「野嵩スディバナビラ石畳道」文化講座

第6回 2024.12.14

橋本真紀夫

1

観光と考古学

■観光とは、

- 「余暇時間の中で、日常生活圏を離れて行う様々な活動であって、触れ合い、学び、遊ぶ、兼観光ということを目的とするもの」。また、商用であっても兼観光を含む。(観光白書)
- 「継続して1年を超えない範囲で、レジャーやビジネスなどの目的で日常生活環境以外の場所に旅行し、滞在する人の活動を指す」(国際世界観光機関)

観光と考古学

■考古学とは、

- 人類が残した遺跡・遺構・遺物などを発掘調査により、当時の人間の生活・技術・文化などを研究・復元する学問。
- 過去の人類の変化や発達の過程を知り、未来に役立たせる使命がある。
- 考古学に関連する専門分野は多く、自然科学分野は考古学研究にとって必須分野である。

2

観光考古学会

■経緯

■提唱

- 2004年に坂詰秀一立正大学特別名誉教授(観光考古学Iー観光資源としての日本の遺跡一)の発表

■当時の評価

- 賛否両論、学問と商業の関係に批判・反対の声も多かった。

観光と考古学

■ 関係性

- 観光と考古学は決して対峙関係にあるのではなく、考古学の調査研究対象としての文化財や遺跡は、観光にとっても行く先の対象地であり、互いに大切なものである。
- 調査研究された遺跡や文化財は、観光価値の高いものとして利用されている。
- 価値ある文化財は、観光に活用され経済圏に含まれ調査や整備の財源に循環される。



■ 観光考古学会の設立

- 2019年(R元年)4月10日
- 坂詰秀一を会長とし設立(学士会間)
- COVIDによる活動自粛(2022年まで続く)
- 同時期に
 - 文化庁から、文化財保護法一部改正発布
 - 文化財の保存・活用を強調

観光考古学会 目的

■ 目的

- 本会は、観光と考古学の融合を図り、地域における文化財の調査・研究と保存・活用を学び、共に協力し交流を重ね地域振興を考えていくことを目的とする。(会則 第3条)

観光考古学会 視点

■ 視点

- 文化財(埋蔵文化財・遺跡を含む)を、文化資源・歴史資源・文化遺産・文化資本・歴史資本として観光に活用する。
- 考古学研究法を基本とした遺跡・遺構・遺物の調査による事実を前提とする。
- 正しい史実を確かに伝える。

機関誌『観光と考古学』第5号

原稿名	執筆者	原稿量	頁
目次		1	1
表紙・裏表紙解説	表紙：待塚古墳(空堀) 裏表紙：深津松平家の墓所	1	2
巻頭言 埋蔵文化財と観光考古学の狭間(仮題)	坂詰秀一(観光考古学会会長、立正大学特別栄誉教授)	1	3
特別寄稿 文化財活用可能性(仮題)	山下信一郎(文化庁文化財調査官)	2	5
激甚災害における観光行政の対応(仮題)	竹内大一郎(観光庁観光地域振興部観光資源課長)	2	7
特集1・栃木県大田原市ー歴史と観光シンポジウム&パネルディスカッション		1	8
主催 大田原市歴史と観光シンポジウム実行委員会 共催 観光考古学会			8
プログラム			8
開会挨拶	長 竜也(大田原市文化振興課長)文字起こし+顔写真	0.5	8.5
会長挨拶	玉木 茂(実行委員会会長)文字起こし+顔写真	0.5	9
来賓挨拶	相馬憲一(大田原市長)文字起こし+顔写真	1	10
趣旨説明	上野修一(大田原市なす風土記の丘湯津上資料館長)原稿依頼+顔写真+会場写真	1	11
記念講演「観光考古学の目指すもの」	坂詰秀一(立正大学特別栄誉教授・観光考古学会会長)	2	13
シンポジウム2 観光考古学の実践とその課題			13
報告1 観光考古学と観光考古学会	那波市郎(観光考古学会副会長)	2	15
報告2 文化資源の点と線と面	長谷川涉(観光考古学会考古学部会長兼観光部会長)	3	18
報告3 地方における史跡活用と課題ー観光との関わりからー	上野修一	5	23 4~6
報告4 地域の誇りとしての文化財と観光	木村康夫(前大田原市歴史民俗資料館館長)	5	28 4~6
※記念講演、報告1~4/転載を原則として補足をお願いする。			28
パネルディスカッション「観光考古学の実践とその課題」/文字起こし+会場写真	パネラー 那波市郎、長谷川	6	34
シンポジウム参加記			34
「観光シンポジウムに思う」(仮題)	境 静夫(元栃木県考古学会会長)/原稿依頼	2	36 1~2
「大田原市歴史と観光シンポジウムの保存活用事業に寄せて」(仮題)/当学会場で原稿依頼済	〇〇〇〇(大田原市なす風土記の丘湯津上資料館学芸員)	2	38
「シンポジウム所感」(仮題)	橋本真紀夫(観光考古学会事務局長)	1	39
特集2・史跡島原藩主 松平家墓所 史跡指定10周年記念事業シンポジウム		1	40
ー史跡島原藩主深溝松平家墓所の整備と活用ー			40
主催 愛知県額田郡幸田町教育委員会 後援 観光考古学会 一般社団法人徳川家康公に学ぶ 三河考古学談話会			40
プログラム			40
開催挨拶	成瀬 敦(幸田町長)/新稿として神取氏に依頼+顔写真	1	41
趣旨説明	神取龍生(幸田町教育委員会文化スポーツ課主任主査)/原稿依頼+会場写真	1	42
記念講演「観光資源としての大名家墓所」	坂詰秀一(立正大学特別栄誉教授・観光考古学会会長・島原藩主深溝松平家墓所保存整備委員会委員長)※新稿を予定+顔写真	4	46
		4	50
事例報告 大名家墓所の史跡整備ーこれまでの10年とこれからの10年ー	神取龍生/要旨を転載+顔写真	4	54
将来展望 徳川家康公に学ぶー地域の魅力向上と活性化	上野正彦(一般社団法人徳川家康公に学ぶ会理事)/要旨を転載+顔写真	4	58
セッション 歴史と文化財を教育・観光に活かす！！		6	64
パネラー 坂詰秀一、上野正彦、山口 寛(観光考古学会理事)			64
司 会 荒井信貴(幸田町文化財保護委員)、神取龍生/文字起こし+会場写真			64
開会の辞	〇〇〇(幸田町〇〇〇〇)/神取氏に相談+依頼+会場写真	0.5	65
主催者としての感想	池田和博(幸田町教育長)	0.5	65
シンポジウム参加記(1~2名)	藤井忠介(東京大学名誉教授 島原藩主深溝松平家墓所保存整備委員会委員)	1	66
	藤井氏と、もう一人は神取氏に選択依頼する。	1	67
※藤井先生、池田教育長の新稿、他の方の原稿依頼は神取氏から依頼していただく。			
令和5年度山梨県埋蔵文化財センターシンポジウム参加記			67
埋蔵文化財活用と観光の視点ー埋蔵文化財を地域資源として活かすー	河合英夫(観光考古学会理事)	2	69
寄稿 大学教育の中の観光歴史学ー観光学を射程に入れた歴史学の提唱ー/早々に原稿依頼をお願いする	宮瀬交二(大東文化大学歴史文化学科教授)	5	74 4~6
地方官衙遺跡の保存と活用事例(仮題)	田尾誠敏(東海大学文学部非常勤講師)	2	76
シリーズ『観光白書』を読むIV	谷口 榮(観光考古学会理事)	2	78
※「観光と社会の潮流」JTBによる観光調査・研究の取り組み等(仮題)			78
文献紹介(新刊紹介)春成 秀爾著『何が歴史を動かしたのか』(3巻)雄山閣	水山昭宏(観光考古学会理事)	1	79 1~2
地域短信 会員の声			79
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇(東京都)	1	80
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇(神奈川県)	1	81
観光考古学会会則役員・事務局/入会案内		1	82
編集後記	河合英夫	1	83
広告	賛助会員	1	84
広告	賛助会員	1	85
広告	賛助会員	1	86
広告	賛助会員	1	87



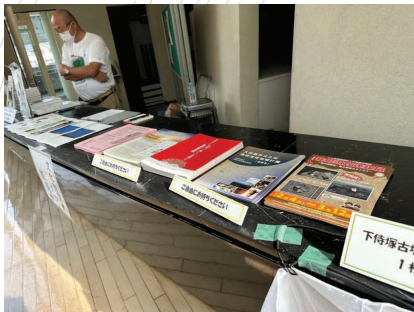
- 2023年8月 愛知県幸田町「史跡島原藩主深溝松平家墓所の整備と活用」
- 2024年2月 山梨県甲府市「埋蔵文化財活用と観光の視点」
- 2024年7月 東京都府中市「観光考古学と武蔵野」
- 2024年10月 長野県千曲市「文化遺産の次世代継承とデジタル技術」

観光考古学会 セミナー

■ セミナー

- 第1回 2021年2月 「地域の文化遺産を活かした観光」
- 第2回 2024年3月 「新型コロナウイルス感染後の文化観光」





観光考古学会 課題

■課題

- 地域振興・まちづくりの事例調査とイベント協賛・後援からの今後の方針構築
- 成功例の周知
- 機関誌の充実
- 論理の構築
- 文化資源化の方策
- 文化財資源の掘り起こしの提言

3

国の取り組み

■文化庁・観光庁

- 2006年「観光立国基本推進法」
- 2007年「観光立国推進基本計画」
- 2019年「文化財保護法改正」
- 2020年「文化観光推進法」
- 2023年「第4次観光立国推進基本計画」
- これらの経緯から文化財の保存保護から地域の文化財を資源化し、観光活用に向けた動きが徐々に高まっている。

4

保存と活用

■遺跡発掘調査

- 調査結果は、報告書という記録保存で終了
- 記録は、出土遺物と共に行政が保管管理
- 考古学専門の担当者が全て行う
- 最近では、一般の人にも周知する傾向があり
- 公開講座、遺跡発表会、文化財イベントなど
- しかし、観光活用には途上であり課題がある

保存と活用

■保存

- 考古学の専門性による緻密な調査成果が大量に保管管理されている
- 記録された報告書、保存された遺物をどのように活用できるか、再整備も必要とすることが多い
- 一般の人や地元住民が理解や実見する機会は少ない

保存と活用

■活用法

- 遺跡を点と捉え、点と点を動線で繋ぎ目的的なルートマップを作成
- これに、飲食店や休憩所、宿泊施設、公共施設（博物館・美術館・公民館）、地形地理特徴（自然景観）を加える
- デジタル活用（発掘調査や情報の公開）
- インターネット活用、You Tube利用、VR.
- プロジェクションマッピングなど
- 自社仏閣の新たな活用

5

「野嵩スディバナビラ石畳道」

■緻密な調査・保存整備計画

- 宜野湾市では、既に1982年市指定史跡となる
- 1995年、保存整備マスタープランが策定
- 2020年、試掘調査
- 2022年、範囲確認調査
- 2023年、範囲確認調査
- 2024年、範囲確認調査
- 2025年、整備工事予定

「野嵩スディバナビラ石畳道」

■15世紀から続く道

- 600年近く現存し、利用されてきた道の歴史的価値は高い
- 地元の歴史遺産・資源として保存し活用するに十分値する
- 調査成果や史実に基づく情報資料から、今後新たな史実や発見がある可能性を持っている
- 道は集落間や物流、交流の幹線であり文化を担う役割を果たしている。



■道(幹線道路)

- 律令下には本州、九州、四国には、7本の幹線道路が整備された
- 東海道・東山道・北陸道・山陰道・山陽道・西海道
- 古道の調査は全国で発掘調査が行われており、新たな発見も少なくない



東京都国分寺市 東山道武蔵路 現地保存



「野嵩スディバ ナビラ石畳道」

- すべきことは多い
- 調査・記録・保存・修復・整備
- 周知・開示・公開・学習
- 地元の誇り・価値付
- 周辺整備・安全対策
- 清掃・監視

「野嵩スディバ ナビラ石畳道」

■持続的運営

- 組織の構築(保存活用委員会など)
- 住民主役が望ましい(大人・子供の参加)
- ボランティア・ガイド
- 行政・住民・大学・博物館・民間の役割分担
- 定期的な会議(年次計画策定、課題の設定と解決策の協議)・調査研究発表
- 予算獲得・クラウドファンディング
- 誘客方法・イベント企画・説明版の設置

「野嵩スディバ ナビラ石畳道」

■ デジタル活用

- タブレット・スマホの普及を利用(DX化)
- 遺跡調査時の写真や動画、説明の現地提供
- XR(VR、AR、MR)
- 記録の電子化(報告書・用語集など)
- ICT(監視カメラ・Web会議や講習に参加)
- AIの活用(迅速な検索など)
- ルートマップの作成更新



長野県千曲市 森將軍塚古墳

